

日 本 家 政 学 会
被 服 構 成 学 部 会 誌

第 44 号

令和 5 年 3 月

目 次

ごあいさつ	1
令和4年度 被服構成学協会 総会	2
令和4年度 被服構成学協会 公開夏期セミナー	
プログラム	3
講演1 「リメイクで楽しむSDGs」	4
講演2 「SREUのサステナブルな商品企画」	5
講演3 「今の時代の繕いの考え方と手法」	6
夏期セミナーに参加して	7
令和4年度 被服構成学協会 公開研究例会報告	
講演1 「インド刺繍ブランド“itobanashi”の フェアトレードなビジネスモデル」	8
講演2 「アフリカの課題とフェアトレードビジネス ～ andu amet の事例を通じて～ 」	9
若手研究者研究紹介	
「3Dモデリストになるために ーアパレル向け3DCADを活用した新しい職種ー」	10
第22回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告	12
令和4年度 研究動向（博士・修士論文テーマ，科学研究費補助金研究課題）	13
会務報告	14
令和3年度 被服構成学協会 収支決算書	16
貸借対照表・監査報告書	17
令和4年度 被服構成学協会 収支予算書	18
お知らせ	19
被服構成学協会 規約	20
被服構成学協会 申し合わせ	22
令和4・5年度役員	23
被服構成学協会入会申込書および変更届，退会届	24

ごあいさつ

一般社団法人 日本家政学会被服構成学部会

部会長 田中 早苗（東京家政大学）

道ばたの名もない草花が芽吹き、梅が咲き桜の季節へと今年も春が巡って参りました。皆様におかれましては新学期を迎えるご準備でお忙しく過ごされている頃と拝察いたします。

私が部会長を仰せつかったこの一年、世界を大きく揺るがしたのは言うまでもなくロシアによるウクライナ軍事侵攻でした。昨年の2月24日以降、私たちは国際情勢を注視せずにはいられなくなりました。それに追い打ちをかけるように、今年2月トルコ・シリア大地震が発生しました。今も厳しい状況におかれている大勢の人々に心を痛めます。それでも前を向いて進まなくてはならないと自分自身を諭します。

令和4年度がスタートして新型コロナによる影響は少しずつ落ち着きを見せ、大学の授業も対面で行われるようになりました。2022年度の夏期セミナーは『アパレルにおけるSDGsの取り組み—アップサイクル・リメイクの実例—』というテーマで開催しました。これは令和3年度2月の公開研究例会『アパレルにおけるSDGsの取り組み—一着の服を大切にする価値観を醸成するユニバーサルで持続可能なモノづくり—』のメインテーマを継続し、衣生活の様々な切り口から話題を提供し、SDGsをブームでは終わらせずムーブメントとする気鋭を込めています。講師の清松加奈子氏は『リメイクで楽しむSDGs』を提唱し、我々の身の回りにある衣服のリメイクアイデアをご紹介くださいました。植木沙織氏は余剰材料を活用して低価格で販売するブランドをご紹介くださり、野口光氏は欧米式の‘あえて隠さないで刺す’ダーニングの手法と繕いに対する新鮮な発想をご提示くださいました。また、2023年2月に開催した公開研究例会もSDGsの取り組みの一環である『日本×海外 フェアトレードの実践』をテーマとし、インドの伝統刺繍と人々の生活を維持するための商品開発と流通販売に携わる伊達文香氏、エチオピアを拠点に革製品のフェアトレードブランドビジネスを展開する鮫島弘子氏にご登壇頂きました。前年度に引き続き夏期セミナーも研究例会もオンラインで開催しました。オンラインは遠方の方も参加できて気軽に参加できるという利点があり、夏期セミナーの参加者は150名を超えました。部会ではオンライン講演で参加費を徴収しないスタンスを継続し、今後も多くの方々に被服構成学部会の活動を知っていただく機会にしたいと考えています。

今年度の夏期セミナーと研究例会は新年度の役員が発足してから企画を開始いたしました。したがって活動助成を申請していませんでしたが、企画委員である滝澤先生、角田先生、砂長谷先生が迅速に企画立案を進めて下さったお陰で、どちらも開催することができました。また、昨今は運営委員の仕事全般において様々なオンライン対応が求められております。運営委員の皆様のお力添えによりこの一年円滑に活動を進めて来られましたことと、部会員の皆様のご理解とご協力にお礼を申し上げます。

さて、令和5年度の夏期セミナーは副部会長の村上かおり先生が実行委員を務める家政学夏季セミナーと連動して行なうことにいたしました。また、研究例会はSDGsを主軸としてオンラインでの企画を予定しております。2023年日本家政学会第75大会は東京家政大学において3年ぶりの対面形式で開催されます。皆様にお会いできますことを楽しみにしております。

令和4年度 被服構成学部会 総会

日時：令和4年5月29日(日) 12：40～13：10(オンライン形式)

令和4年度被服構成学部会総会は、本大会がオンライン開催のため、オンライン形式で行った。

総会次第

1. 議 事

- (1) 令和3年度事業報告
- (2) 令和3年度会計報告
 - ① 令和3年度収支決算報告
 - ② 令和3年度貸借対照表
- (3) 令和3年度会計監査報告
- (4) 令和4年度事業計画(案)
- (5) 令和4年度夏期セミナー(案)
- (6) 令和4年度予算(案)
- (7) 部会誌第44号編集(案)

2. 報 告 事 項

- (1) 部会員数について
- (2) その他

上記の議事について審議し、承認された。

令和4年度 被服構成学部会 公開夏期セミナー

テーマ：アパレルにおけるSDGsの取り組みーアップサイクル・リメイクの実例ー

日程：令和4年8月22日(月)13:00～16:15(zoomオンライン開催)

13:00～13:10	開会のごあいさつ
13:10～14:10	<講演1> 「リメイクで楽しむSDGs」 (株)カナコーン 代表取締役 ファッションデザイナー 清松 加奈子 氏
14:10～15:10	<講演2> 「SREUのサステナブルな商品企画」 (株)ATENYOY(アテノイ) SREU(スリュー)デザイナー 植木 沙織 氏
15:10～15:15	休憩
15:15～16:15	<講演3> 「今の時代の繕いの考え方と手法」 テキスタイルデザイナー 野口 光 氏
16:15	終了

「リメイクで楽しむ SDGs」

(株) カナコーン 代表取締役 清松 加奈子 氏



Sustainable Development Goals(持続可能な開発目標)に向けての取り組みが益々広がりを見せる中、衣生活教育の現場においてもこの課題にどのように向き合うかがより一層、重要になっている。そこで授業にも取り入れやすい実践的なアップサイクルやリメイクの実例について、株式会社カナコーンの清松加奈子氏からお話を頂いた。

はじめに、リメイクを行う際は、「簡単に」「かわいく・素敵に」「短時間で」の3つの要素が必要であり、リメイクを楽しむためには重要であると述べられた。次に、幾つかの衣類を例に具体的なリメイク手法を詳細に教えて頂いた。

例えば、着古したTシャツにハンカチやボタンを付ける、タックや切り込みを加える、あみこみを施すなどのアレンジを試みることで、これまで処分するしかないと考えていたTシャツが、お気に入りの1着に生まれ変わることができることを教えて頂いた。

他にも、布帛素材のシャツやスカート・ワンピースなどは、エプロンやキュロット、セットアップなどは簡単にリメイクすることが可能であるとお話くださった。

更に、スウェットパンツがサロペットに、パーカーが襟付きトレーナーに各々形を変える方法も詳細にご説明頂いた。その他、腕や胴の部分の布を細く裁断し、フリルやリボンに応用可能になることも教えて頂いた。また、マスクやハンカチ、ティッシュケースやクッション等の製作工程に、リメイクで残った端切れやパーツ類を無駄なく利用することで、更なるリメイクが可能であることも教えて頂いた。

近年、アパレル業界では在庫商品の処分が環境汚染の問題として取り上げられていることから、最近では在庫品を今年度風に再度リメイクを施し新しい商品として販売するケースが増えている。

例えば、売れ残りのコートにボレロを付け2WAY仕様にする、有彩色の布帛だったものを黒色に染め販売する、ノースリーブのワンピースだった服に袖を付け長袖や半袖にアレンジするなど、着られなくなった衣服も少し手を加えるだけで見違えるように姿を変えることができるとご説明頂いた。

今回のご講演では、家にミシンがない場合や裁縫道具が揃っていない場合でも、気軽に製作可能なアイテムについて具体的に学んだ。ハンドメイドの楽しさを多くの方に伝える機会を頂いたご講演であった。

リメイクで楽しむSDGs

株式会社カナコーン代表取締役 清松加奈子



2. いらないボタンを集めておいて利用する方法

不要になった洋服のボタンなどを集めておくと、お気に入りの洋服にボタンを付け替えることができます。また、お気に入りの洋服のボタンを、お気に入りの洋服に付け替えることができます。

(記録：小野寺 美和)

「SREU のサステナブルな商品企画」

(株) ATENOY SREU デザイナー 植木 沙織 氏

2022年8月22日の夏期セミナーでは「アップサイクルにおけるSDGsの取り組みーアップサイクル・リメイクの実例ー」というテーマでオンラインによって開催された。リメイクブランド「SREU」のデザイナーである植木氏は、国内向けにはコーディネートの取り入れやすさを意識したアイテムで展示会を行い、いまだ先の見通せないコロナ禍ではあるが、パリでの展示会も再開している。サステナブルな取り組みを意識した、サステナブル素材、いわゆる古着、デットストック、リサイクル素材、企業の残反およびB反の割合が現在は70%であり、2024年までにはこの割合を100%にすることを目指し環境や社会にアプローチをしている。

古着をそのまま利用するUSED、古着と古着のUSED×USED、古着と新しいものUSED×OTHERの循環型ファッションである。カッコよくより良いブランドであることを大事にし、それがたまたまりメイクであったと話されていたが、とても斬新で素敵なデザインであった。植木氏にとって古着は、生地や材料の一つに過ぎず、自分の好きなスタイルを制作しているだけという言葉に目から鱗であった。

もったいないという言葉やSDGsが出現してから久しく時は流れたが、自分は果たしてどれだけ環境に配慮した衣生活を過ごしてきたであろうかと反省をした。リメイクは難しい、古着をどう組み合わせたらよいのかわからない、と言い訳をしていたことに気づかされた。

SDGsの17の目標のうち、アップサイクルに最も関係が深いのは、目標12「つくる責任 つかう責任ーすべての人の意識と行動のシフトー」であろうか。これまで私たちは、大量の資源やエネルギーを利用し、大量生産、大量消費、大量廃棄を繰り返してきた。しかしこれらの資源やエネルギーが未来永劫に利用できるわけではない。持続可能な消費と生産のパターンを確保していくためには、消費者と生産者の行動を変えていかなければならない。

これらの背景を踏まえサステナブルな取り組みを大学教育に取り入れることは、教育意義があり社会貢献の人材育成には欠かすことのできないテーマである。まずは社会の様々な課題を知ることから始めなければいけないが、知識を得ることで価値観が変わり、そこから行動に繋がられるような学修方法を指導していくことが重要であることを教えて下さった講演であった。



図1. 回収古着



図2. 解体からの裁断



図3. アップサイクル商品



図4. 古着+再生オーガンジー

(記録：伊藤 瑞香)

「今の時代の繕いの考え方と手法」

テキスタイルデザイナー 野口 光 氏

野口氏が暮らしていたイギリスでは、不用のモノはチャリティショップへ寄付をし、自分の手で直すという習慣が見受けられなかった。ご自身がニット専門のテキスタイルデザイナーであり、様々なデザインを発表した後、毛糸が手元に残ることは通常である。次回のコレクションにそれらを使用するために問屋に問い合わせると、生産中止になっていたりする。その繰り返しに矛盾を感じ、「あたりまえの暮らしを大切にする」というモットーが見直され始めていた時に、ダーニングと出会った。

日本では、“かけはぎ”や“繕い”の意味は傷んだ個所の繕い跡を全く見せない再生の行為を指しているが、欧米式のダーニング(バスケットダーニング)は、あえて隠さないように刺す手法であるというコンセプトを学んだ。昭和世代にとっては、繕いモノに対して「貧困・恥ずかしさ」のイメージが根強く残っている。その背景には、戦前戦後の物資不足で衣生活においても大きな影響が関与しており、ネガティブなイメージと繋がっていたのであろう。しかし、今の若者は「繕い」を知らずに育ってきている。SDGs(持続可能な開発目標)への意識が高い現代では、あえて繕い跡を目立たなく仕上げたデザインや、逆に目立つ仕上げにしたデザインなどを施し、デザイン意思決定の要素も持ち合わせており、「繕って着る」という行為が、日常生活に加わる余地は大きいと感じている。

誰もが“手縫い”を日常的に取り入れられるようダーニング技法のベースは、「なみ縫い」「返し縫い」「ブランケットステッチ」の3種類を基本として、これらの組み合わせでほぼ完成するようになっている。衣類の素材も様々になってきており、それに対応できるよう手法の開発・発表・指導も行っている。作業代金を払うほどではないが、もう少し着たいという思いが自分の手で繕うという行為につながり、後に役立つ知識と経験になっていくよう願っている。

現在、アパレル産業は“環境にやさしい”という点から様々な新素材が日々研究され、実用化されている。素材の由来による環境への負荷の有無は、結論には至っておらず価値観の変化に往々とされている。モノが溢れている時代ではあるが、世界の国々がすべて同じではない。自然や気候変動に関連して、生活環境が厳しくなりつつある国も珍しくない。一人ひとりができる“繕う”という単純な行為で、例えば年間の衣類の購買・消費・廃棄量への減少や衣服の購入する際の基準の変更で、環境への負荷の軽減へとつながっていくよう願っている。その取り組みの一環として、手縫いの楽しさや縫う実用性・創造性などを家庭科の授業で早い時期から学ぶことが重要であると思っている。「繕い」...、その言葉を今回の講演で聞き、どこか懐かしい響きを覚えた。

しかし、野口氏のお話は、傷んだ部分を見えないように新品同様にするという繕いではなく、持続可能社会への新しい提言と受け取れる。講演では、「繕う」からは「縫う」だけではない様々なことが学べるということ、そしてそれは日本の伝承文化技法にも通ずる部分が多く、今後受け継がれていく面を多く持ち併せていると改めて気づかされた。



(記録：十一 玲子)

夏期セミナーに参加して

相模女子大学 角田 千枝

2022年8月22日に、オンラインによる公開夏期セミナー「アパレルにおけるSDGsの取り組み—アップサイクル・リメイクの実例—」に企画委員の立場で参加しました。本学会では、昨年度2月の研究例会にて「アパレルにおけるSDGsの取り組み— 一着の服を大切に作る価値観を醸成するユニバーサルで持続可能なモノづくり—」を開催しましたが、SDGsの取り組みは依然として重要です。そこで、今回は「アパレルにおけるSDGsの取り組み」の第2弾として、教育現場で取り入れやすい実践的なアップサイクルやリメイクの実例について、3名の講師をお招きしご講演いただきました。

講演1の「リメイクで楽しむSDGs」では、小中学生でもできるリメイクの手法についての解説の後に、オンラインでありながらも、その場でリメイク方法の質問に答える臨場感あふれる講演でした。今ある物を活用してより良いものに作りかえる実例の数々、そして、一般的な縫製方法に捉われないリメイク手法により、リメイクのハードルが下がった方も多かったことでしょう。特に、教育現場の皆様や、教職課程を履修中の学生の方にとって、参考になったのではないのでしょうか。昨今、小中高の家庭科の授業時間数の減少に伴い、画一的な指導しかできないことに悩んでいらっしゃる指導者の方も多いとお聞きます。また、家庭科の授業は生徒の満足度が高い科目であるとの報告もあり、より深く学びたい生徒も多いことでしょう。今回の講演内容は短時間や簡易な技法も多かったため、そんな学習意欲の高い生徒に伝えるだけでも学習効果を高められるのではと感じました。

講演2の「SREUのサステナブルな商品企画」では、プロの技術により生み出される完成度の高いファッションブルなアップサイクルを学ぶことができました。古着一着一着の良さを見つめ、解体し再構築していくデザイン手法に、モノづくりへのストイックさを感じました。以前はアパレルメーカーがリメイクやアップサイクルを実施するのは価格的に難しいと聞いておりましたが、膨大な廃棄衣料の問題が周知のこととなった現在ではSDGsに真剣に取り組む会社も多くなりました。そのため、アパレル関連会社での活躍を目指す学生や教育者にとって、今回の実例は非常に参考になったことと思います。

講演3の「今の時代の繕いの考え方と手法」では、元に戻すことを目指した修繕ではなく、ダーニングの手法を用いることで唯一無二の愛着の沸くモノとなる修繕を学ぶことができました。子供から大人まで容易にできる手法であると共に、長く使い続けることの尊さを感じることができる素晴らしい講演内容でした。また講演者の野口様は南アフリカ共和国からのご出演であり、海外と日本との考え方の差についても教えて下さいました。アパレル産業は日本国内のみの流通では先細りであり、よりグローバルな展開が求められています。教育現場でも更に国際的な視野を有した人材育成が求められると予測されるため、国際的にご活躍をなさっている方の経験談をお聞きできたことは大変貴重な機会となりました。

これまで私は、SDGsが今の時代に重要であることは理解しながらもあまり取り組めていませんでした。しかし、今回の講演内容は実践しやすい作品例が多かったため、授業や自身の生活で実際に取り入れてみたいと思っています。もし、私と同じように感じて下さった方がいましたら、それぞれの立場で抽出し活用していただければ嬉しく存じます。このように、素晴らしいご講演をしてくださった先生方に心より感謝申し上げます。

令和4年度 被服構成学部会 公開研究例会報告

「日本×海外 フェアトレードの実践」

講演1 「インド刺繍ブランド“itobanashi”のフェアトレードなビジネスモデル」

株式会社イトバナシ 代表, デザイナー 伊達 文香 氏

本年度の研究例会は、2023年2月18日(土)14時から17時45分迄の約4時間、インドやエチオピアと日本を繋いだオンライン形式の講演会となった。テーマを「日本×海外 フェアトレードの実践」と題し、アパレルにおけるSDGsの取り組みの中から「フェアトレード」に的を絞り、インドやエチオピアを拠点にフェアトレードでブランドビジネス展開する方々にご講演頂いた。

講演1では、「世界中の途上国でその土地土地の文化と伝統を反映した刺繍を使った事業を、その土地の人々とともにつくる」ことを事業の基盤にしている、株式会社イトバナシ代表取締役 兼デザイナーの伊達様に、インド刺繍ブランド“itobanashi”のフェアトレードなビジネスモデルについて、ブランド立ち上げのきっかけやその企業理念、インド各地域の刺繍の特徴と刺繍職人の方々の現状など、現地とのライブ中継も交えてご講演頂いた。

ブランドの立ち上げは、大学院在学中に参加した「トビタテ！留学JAPAN」でのインド留学の経験がきっかけとのこと。留学中にインド各地域の民族衣装の刺繍文化に魅せられるが、時代の流れによりその刺繍技術の継承が難しくなっていることや、インドの人々の劣悪な生活環境の一面も知ることになる。そのような経験から、インド刺繍の継承と現地の人々の生活改善に何か力になれないかと考え、フェアトレードを行うファッションブランドをスタートされた。

フェアトレードビジネスを始めたことで、技術職としての刺繍職人の人材育成や、刺繍職人の子供たちが学校に通い、それまでより豊かな生活を送れるようになるなど、フェアトレードビジネスとして大きな成果をあげられている。そして、地域により異なるインド刺繍「チカン刺繍」「カンタ刺繍」「アリ刺繍」の刺繍図案の特徴や文化的背景、ブランドitobanashiのもののづくりの流れとインドと日本での関わり方「商品企画(日本)⇒刺繍図案デザイン(日本・インド)⇒刺繍の製作(インド)⇒服のデザイン(日本)⇒服の縫製(日本・インド)⇒販売(日本)⇒フィードバック(日本・インド)」の解説を頂いた。また、昨今のコロナ禍による事業への影響は大きく、インドからの輸入規制に対しては、新たに国内刺繍(富山のエンブロイダリーレース)に目を向け新たなビジネスを展開し、これまでの販路であった百貨店催事中止に対しては、自社店舗(奈良)による月に3日限定の販売に切り替えた。その結果、年間売り上げの9割に達するなど、ピンチをチャンスに変えた成功例を伺うことができた。ご講演の内容は、フェアトレードビジネスにおけるファッションブランドの経営者の立場に立った内容で非常に興味深いものであり、これからの教育へ活かすための良い機会にもなった。貴重な講演に感謝したい。



(記録：砂長谷 由香)

令和4年度 被服構成学部会 公開研究例会報告

「日本 × 海外 フェアトレードの実践」

講演2 「アフリカの課題とフェアトレードビジネス～ andu amet の事例を通じて～」

株式会社 andu amet 代表, デザイナー 鮫島 弘子 氏

講演2は, エチオピアでフェアトレードビジネスを成功させた, 株式会社 andu amet 代表であり, ファウンダー・デザイナーをされている鮫島弘子氏にご講演いただいた。

導入に, 鮫島氏が一人で起業したフェアトレードブランドを特集したカンパリア宮殿の編集動画が流され, その後, 詳細をお話された。最初にエチオピアに渡った経緯, エチオピアが世界最貧国であること, そこで出会った世界最高峰で国の宝とされるエチオピアシープ。そして初めて知ることとなった途上国の劣悪な生産現場や低い製品品質。その結果, 産出している羊革のほとんどを加工せず海外に輸出し, 海外で加工されると高級品として高い付加価値が付く一方でエチオピアには僅かしかお金が入らないという現実。そこで, 「エチオピアで世界に通用し, 皆の憧れるブランドを作ろう!」と一念発起し動き出したブランドの成り立ちと今日までの歩みが非常に解りやすく解説された。エチオピア製最高品質のバッグを目指して, 現地の元ストリートチルドレンや会社の門番, 掃除人といった人間を人材として受け入れ, 長い年月をかけて丹念に技術指導を施し, 世界品質の縫製技術を持つ職人にまで育て上げた。今ではかつて目指した最高品質でエチオピアの個性を活かしたデザインのバッグを販売するに至り, ファンも着実に増やしている。講演の最後には, 今後の活動や展望についてお話され締めくくられた。

折しもエチオピア国内の情勢が不安定で政府によるネット規制がされていると伺っていた中でのご登壇であったが, 幸い一度もネットが途切れることなく, 止めどなく歩を進めておられる鮫島氏の強い信念と熱意は遠い日本との距離を全く感じさせない程, ひしひしと伝わるご講演であった。



(記録: 滝澤 愛)

3D モデリストになるために - アパレル向け 3DCAD を活用した新しい職種 -

株式会社 FMB 齋木 有希子

1. 自己紹介

株式会社 FMB-Fashion Metadata Bank-(以下 FMB) 3D モデリスト 齋木有希子と申します。東京家政大学家政学部服飾美術学科卒業、同大学で助手として勤務をしていました。在職中にファッションテック専門スクールの Tokyo Fashion Technology Lab. (TFL) へ半年間通学して 3DCAD「CLO」の技術習得を行いました。

現在は株式会社 FMB で 3D モデリストとして勤務をしながら、TFL で CLO の講師をしています。個人的には昨年開催された「Marvelous Designer デジタル衣装コンテスト」で最優秀賞をいただき、ファッション 3D のクリエイターとしても活動をしています。FMB はアパレルの DX 化を推進するため、ファッション 3DCG を生産から販促まで活用するコンテンツを提供するスタートアップ企業です。

2. ファッション 3D モデリストとは

はじめに、「ファッション 3D モデリスト」の定義についてです。一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会(FDE)が提唱する「ファッション 3D モデリスト」は、高度な 3DCG スキルと同時にファッションの感性を兼ね備え、ブランドのイメージを創造できる新しい「クリエイター」のことを指しています。ファッション業界で活用できるようリアルな CG を制作するために、3DCAD のオペレーションだけではなく、ファッションの感性と、CG の技術を合わせて、個々の表現力を発揮して新しい価値を提供することのできる新しい職種です。

前提として服飾造形に対する理解があり、パターンや構造の理解をしたうえで 3DCAD のオペレーションを身に着け、ブランドのイメージに合わせた表現ができるクリエイターを指します。

3. どのようにして 3D モデリストになったのか

私が 3D モデリストの資格を取るまでの流れに沿ってご紹介します。

東京家政大学在学中、服飾の基礎知識、造形、デザイン、2DCAD、画像編集ソフト等を学びました。

次に、TFL の 2021 年に新しく開講された「DX コース」を受講する。半年間かけて、アパレル向け 3DCAD ソフト



図1 3D モデリスト検定2級 実技課題

「CLO」のオペレーション, 素材の知識, CGの基礎知識, 汎用3DCGソフトの技術習得, 付随するカメラや照明の知識や技術習得を行いました。

受講後, ファッション3Dモデリスト3級の検定試験を受け「ファッション3Dモデリスト3級」の資格を取得しました。1年後の2022年10月に2級も取得しました。

4. ファッション3Dモデリスト検定について

資格検定は一般社団法人ファッションデザインエンジニアリング協会が年に2回実施をしています(2023年現在)。2023年4月に実施される試験で, 3級が4回目, 2級が2回目の実施になります。試験内容は実技試験と筆記試験があり, オペレーションやCGに関する知識と, 受験者のクリエイティビティのどちらも合格ラインに到達すると資格認定を受けることが出来ます。

級による違いとして, 3級はCLOの基本的なオペレーションが中心の内容で, 2級はよりディテールの作りこみや表現力, より深いCGの知識が必要なレベルです。



図2 3Dモデリスト検定3級 実技課題

5. 3DCGに期待されること

現在, アパレル企業では企画段階での活用にとどまっているように見受けられますが, 展示会やECサイトでの活用も徐々に現れている段階です。他業界ではCADを活用した企画・製造は一般的で, アパレル業界と比較すると大きく差があるように感じますが, ここ2〜3年の間に大きく動き出したとされています。

3DCGだけにとどまらずデジタルツールの活用により, 先の予測や, 新しい販売方法, サステナブルな生産といった製造段階での更なる進歩や, 世界に広がっていくことによる業界の発展も想像できます。

またファッション3DCGの活用先としてはアパレル業界ではなく, 個人クリエイターが制作を行ったウェアでアバターを着飾る, 販売してコミュニケーションを行う, NFTとしての出品といった活用も広がっています。

ファッション3DCGの活用により新たな生産の流れが生まれることで, 時間の余裕や新しい価値が, 日々, 生み出されています。一人のクリエイターとしては, 表現の幅が大きく広がったことにより, 服を縫うことから表現することへ踏み込みより楽しく創作を行い, 発信をするようになりました。人の輪が広がり, 自分の未来の可能性が確実に広がり, これからも広がっていくと確信しております。

引用文献

佐々木 幸二(2021), 「ファッション3Dモデリスト検定3級(CLO編)」, 織研新聞社, 7p

第22回 全国中学生創造ものづくり教育フェア報告

東京家政大学 田中 早苗

令和4年度の「豊かな生活を作るアイデアバッグ」コンクールは令和5年1月28日(土)、オンラインで開催された。審査会場は塩尻市教育センター(塩尻西小学校内)、全国4ブロックから選抜された9名の選手が製作したアイデアバッグのプレゼンテーションを行ない、事前に送られてあるレポートと実物作品を対象に、5人の審査員で文部科学大臣賞、厚生労働大臣賞など9つの賞を決定した。

創造ものづくり教育フェアは‘中学生ものづくり甲子園’というサブタイトルのもとに「豊かな生活を作るアイデアバッグ」コンクールの他、生徒作品コンクール、木工チャレンジコンテストなど6つの部門で行われる。コロナ禍以前は東京で一同に会して競技を行っていたが、昨年から各部門がそれぞれの会場に分かれてオンラインで開催されている。本部会が授与する賞は、日本家政学会被服構成学部長賞と日本家政学会被服構成学協会奨励賞である。前者はアイデアバッグ部門の1名に与えられ、後者は生徒作品コンクール部門「家庭分野」の2名に与えられた。部会長賞のアイデアバッグ(写真左)のタイトルは「お兄ちゃんもうこれで安心、楽にさせよう作戦!〜物を探さない、無くさないアイデア満載のバッグ〜」ジーンズとチェック柄ワンピースの効果的なリメイクでDカン、ナスカン、移動カンなど種々の留め具を適切に使用していたのが特徴であった。生徒作品コンクール部門の作品はワンピース、着物と袴、布絵本、布のおもちゃなどバラエティに富んでいる。奨励賞は、ミリタリー調のステージ衣装「ジャケット&ハンカチーフヘムラインスカート・帽子付き」(写真右)と「着せ替え人形」(写真中央)縫いぐるみと着せ替え服や着物とクローゼットであった。

アイデアバッグコンクールの競技の課題は『バッグ(ショルダーバッグ、トートバッグ、リュックサックなど)』とされ、使用する布については、バッグ本体の全部または一部に家庭にある自分または家族の衣服を用い、衣服以外の布などを加えてもよい。デザイン及び機能については、衣服の一部をそのままの形で1つ以上活用する。バッグの口を閉じられるようにして中身が出ない工夫をする。縫製については、入れるものに必要な強度が保たれるように布目の方向や縫い目の大きさ及び縫い代の始末の仕方などを工夫する、バッグのいずれかの部分にまつり縫いを取り入れる、スナップは必ず1つ以上付ける、3時間程度で製作できる作品とするなど、詳細に規定されている。しかし、決勝大会に集まった作品は何れも3時間程度で製作できたとは思えない程、作り込まれた作品ばかりであった。また、衣服の活用、型紙の配置、作り方手順などを示したレポートは中学生らしい挿絵があれば、プロ並みに図解や写真を駆使したレポートもあった。審査はレポート、縫製、プレゼンテーション、衣服の再利用の4項目で点数化し、合計得点の高い順で賞が決められた。被服構成学部長賞は7番目であったが、今年度も協賛金を提供し創造ものづくりフェアパンフレットの広告に被服構成学協会の存在感を示している。今年度はオンラインのためワークショップなし、副賞は無用、賞状のみ送付、賞状の授与式なしで受賞結果は翌日のホームページで公開された。受賞作品に対する審査員のコメントが動画で公開されている。『中学生、ものづくり』で公式ホームページを検索することができる。



令和4年度 研究動向（博士・修士論文テーマ，科学研究費補助金研究課題）

「2022 年度博士論文テーマ」

「家庭科の製作実習における楽しさや喜びの教育的意義：刺し子製作実習におけるフロー体験」

山中 太子（指導：川端 博子）東京学芸大学大学院連合学校教育学研究科

「2022 年度修士論文テーマ」

「中日の古着に対する意識と実態の比較研究 ―循環型社会における衣生活を目指して―」

周 雨（指導：村上 かおり，鈴木 明子）

広島大学大学院人間社会科学研究科 教育科学専攻 教師教育デザイン学プログラム 人間生活教育学領域

「令和4年（2022）年度 科学研究費補助金 研究課題」

基盤研究（B）

「アパレルの国際市場拡大のためのユニバーサルな個別対応衣服設計システムの構築」

2019 年度～2022 年度，研究代表者：日本女子大学 大塚 美智子

基盤研究（C）

「アパレル CAD システムを用いた風合い「しっとり」の触覚と視覚評価の関係」

2019 年度～2022 年度，研究代表者：武庫川女子大学 末弘 由佳理

「熱中症予防支援システム構築のための人－着衣－環境系の評価」

2020 年度～2022 年度，研究代表者：横浜国立大学 薩本 弥生

「3D バーチャルボディを生かした現代に求められる実物ボディ（人台）の開発」

2020 年度～2022 年度，研究代表者：共立女子大学 丸田 直美

「乳がん患者の衣服選択を支援するスマートミラー開発のための基礎研究」

2021 年度～2023 年度，研究代表者：文教大学 土肥 麻佐子

「シエラレオネの職業訓練生の技能教育教材開発を活用した衣生活教育力育成の構想」

2021 年度～2023 年度，研究代表者：広島大学 村上 かおり

「個人のデザインアイデアをファッション市場に活かすデジタルドローイングの基礎研究」

2021 年度～2024 年度，研究代表者：滋賀県立大学 森下 あおい

「社会的弱者の安全に役立つ視認性に優れた新規の蓄光布と蓄光衣服の創製」

2022 年度～2026 年度，研究代表者：甲南女子大学 小野寺 美和

（注：継続研究と部会員の皆様への呼びかけに対して，お申し出頂いた分のみ掲載いたしました。）

会 務 報 告

1. 令和4年度会務報告

1) 事業報告

① 総 会

日時：令和4年5月29日（日） 12:40～13:10

開催方法：オンライン形式

② 令和4年度夏期セミナー

「アパレルにおけるSDGsの取り組み
ーアップサイクル・リメイクの実例ー」

日時：令和4年8月22日（月）

開催方法：オンライン形式

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援と 『豊かな生活を創るアイデアバッグ』コンクール審査

日時：令和5年1月28日（土）

場所：長野県塩尻市教育センター

開催方法：zoomを使ったオンラインによるプレゼンテーションの審査

結果発表(全日本中学校技術・家庭科研究会webで公開、表彰式はなし)

④ 研究例会

「日本×海外 フェアトレードの実践」

日時：令和5年2月18日（土）

開催方法：オンライン形式

2) 庶務報告

① 第1回運営委員会

日時：令和4年5月29日（日）

開催方法：オンライン形式

- (1) 令和3年度事業報告
- (2) 令和3年度会計報告
- (3) 令和3年度会計監査報告
- (4) 令和4年度業計画（案）について

(5) 令和4年度夏期セミナー（案）について

(6) 令和4年度予算（案）について

(7) 部会誌第44号編集（案）について

(8) その他

② 第2回運営委員会

日時：令和4年8月3日（水）

開催方法：オンライン形式

- (1) 令和4年度夏期セミナーについて
- (2) 令和4年度研究例会について
- (3) 部会誌第44号編集（案）について
- (4) 令和4年度ものづくり教育フェアについて
- (5) 総会の出席者数について
- (6) その他

③ 第3回運営委員会

日時：令和5年2月18日（土）

開催方法：オンライン形式

- (1) 令和5年度の活動について
- (2) 令和5年度活動助成の申請について
- (3) 令和5年度部会総会について
- (4) 各系の活動報告
- (5) その他

3) 会計報告（次頁以降参照）

2. 令和5年度事業計画（案）

① 総会

日時：令和5年5月26日（金）～5月28日（日）

場所：東京家政大学

② 夏期セミナー

テーマ：未定

開催方法：未定

③ 全国中学生創造ものづくり教育フェアへの後援

日時：令和6年1月下旬

場所：未定

④ 研究例会

テーマ：未定

開催方法：未定

⑤ 部会誌45号の発行

⑥ ホームページの維持管理

⑦ その他

令和3年度 被服構成学部会 収支決算書

(2021年4月1日から2022年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	注 意	予算	決算	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入金金				0	
年会費		300,000	295,000	5,000	正65追正3次正4学生2永年1
会誌購読料				0	
大会等参加費		0		0	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	0	32,000	▲ 32,000	大塚美智子先生よりデータブック代寄付として
特別寄付金	使途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	12	▲ 2	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金金額(税金も含む)	180,000	144,204	35,796	夏期セミナー-61732研究例会82412
経常収益計		480,010	471,216	8,794	
(2) 経常費用					
①事業費		661,000	352,262	308,738	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000		5,000	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	200,000	218,074	▲ 18,074	夏期セミナー-32389 情報伝達部32389 研究例会1315085
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	5,000	5,500	▲ 500	研究例会(取材費)
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000		5,000	
セミナー・講演会等印刷費		10,000		10,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000		5,000	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000		5,000	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		0	4,600	▲ 4,600	研究例会(取材補助学生アルバイト代)
学会誌等関連印刷費		85,000	81,774	3,226	部会誌印刷・封筒・発送費
学会誌等関連通信費		0		0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	2,514	17,486	ものづくりフェア副賞
関連学会会金費		30,000	20,000	10,000	ものづくり教育協賛費
会議費	会議用のお菓子、お茶等	26,000		26,000	
広報費	ホームページ等	55,000	11,000	44,000	HP更新費
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	200,000	6,270	193,730	ものづくりフェア宿泊費
事務委託費					
支払負担金	振込手数料	2,000	2,530	▲ 530	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	8,000		8,000	
②管理費		23,000	12,766	10,234	
給料手当					
福利厚生費					
旅費交通費	(本部のみ)				
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	12,766	2,234	部会誌参加費口座振替料 現金書留封筒・レターパック
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000		3,000	
光熱水料費					
雑費	(本部のみ)				
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)				
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000		5,000	
修繕費					
減価償却費	(本部のみ)				
リース料					
事務所管理費					
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する額)				
活動助成費					
経常費用計		684,000	365,028	318,972	
当期経常増減額		▲ 203,990	106,188	▲ 310,178	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なので該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 203,990	106,188	▲ 310,178	
一般正味財産期首残高	(2020年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,339,923	2,339,923	0	
一般正味財産期末残高	(2021年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,135,933	2,446,111	▲ 310,178	

貸借対照表
(2022年3月31日現在)

		(単位:円)	
科 目	当年度	前年度	増減
I 資産の部			
1. 流動資産			
手許現金	0	0	0
普通預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)	1,496,252	1,363,973	132,279
通常預金	0	0	0
振替口座(ゆうちょ銀行〇一九)	949,859	975,950	▲ 26,091
流動資産合計	2,446,111	2,339,923	106,188
2. 固定資産			
部会大会基金引当預金			
定期預金(三菱東京UFJ銀行国分寺支店)			
通常貯金(ゆうちょ銀行)			
固定資産合計	0	0	0
資産合計	2,446,111	2,339,923	106,188
II 負債の部			
1. 流動負債			
未払い金			
負債合計			
III 正味財産の部			
正味財産			
1. 指定正味財産			
2. 一般正味財産	2,446,111	2,339,923	106,188
負債及び正味財産合計	2,446,111	2,339,923	106,188

会計監査報告書

監 査 報 告 書

一般社団法人 日本家政学会
会 長 香西 みどり 殿

私も監事は、2021年4月1日から2022年3月31日までの2021年度の部会の重要な会議に出席するほか、事業報告を聞き、重要な書類を閲覧し、主要な調査を行い、かつ当該事業年度に係る計算書類について監査を実施した結果、次のとおり報告します。

1. 事業報告は規程に従い、部会の状況を正しく示しているものと認めます。
2. 貸借対照表は2021年度期末現在の財政状態を正しく示していると認めます。
3. 正味財産増減計算書は2021年度の収支の状況を適正に表示していると認めます。
4. 役員の職務遂行に関する不正の行為または定款に違反する重大な事実はありません。

以上

2022年4月4日

一般社団法人 日本家政学会
(被監査者) 部会

監事 大塚 多智子 

監事 川端 博子 

令和4年度 被服構成学部会 収支予算書

(2022年4月1日から2023年3月31日まで)

(単位：円)

科 目	注 意	2022年度	2021年度	差異	備考
一般正味財産増減の部					
1. 経常増減の部					
(1) 経常収益					
①基本財産運用益	(本部のみ)				
特定資産運用益	大会基金となっている定期預金の利息			0	
入会金				0	
年会費		300,000	300,000	0	
会誌購読料				0	
大会等参加費			0	0	
広告料				0	
刊行物売上				0	
著者負担金				0	
補助金	(名称と交付者を備考欄に記載願います。)			0	
一般寄付金	活動全般に使ってよい寄付金	0	0	0	
特別寄付金	使途を限定した寄付金			0	
雑収入	普通預金利息	10	10	0	
②本部からの支部費	(支部のみ、選挙の為の通信費も含む)				
本部からの支部活動活性化サポート費	(支部のみ)				
本部からの活動助成費	活動助成金全額(税金も含む)	0	180,000	▲ 180,000	
経常収益計		300,010	480,010	▲ 180,000	
(2) 経常費用					
①事業費		448,000	661,000	▲ 213,000	
大会会場使用料				0	
大会講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)			0	
大会旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い			0	
大会消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む			0	
大会印刷費				0	
大会研究発表要旨集作成費				0	
大会通信運搬費				0	
大会臨時雇賃金				0	
総会費				0	
セミナー・講演会等会場使用料		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等講師謝金	講師への支払い総額(旅費交通費含む)	220,000	200,000	20,000	
セミナー・講演会等旅費交通費	実行委員会メンバーなど講師以外への支払い	10,000	5,000	5,000	
セミナー・講演会等消耗品	文具等だけではなく弁当代、懇親会費等も含む	5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等印刷費		5,000	10,000	▲ 5,000	
セミナー・講演会等研究発表要旨集作成費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等通信運搬費		5,000	5,000	0	
セミナー・講演会等臨時雇賃金		5,000	0	5,000	
学会誌等関連印刷費		85,000	85,000	0	
学会誌等関連通信費			0	0	
学会誌等関連原稿料・校閲料等				0	
学会誌等関連電子ジャーナル化費用				0	
研究補助費				0	
表彰費	奨励賞等	20,000	20,000	0	
関連学会等会費		20,000	30,000	▲ 10,000	
会議費	会議用のお菓子、お茶等	5,000	26,000	▲ 21,000	
広報費	ホームページ等	20,000	55,000	▲ 35,000	
旅費交通費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する旅費交通費	30,000	200,000	▲ 170,000	
事務委託費					
支払負担金	振込手数料	3,000	2,000	1,000	
雑費	大会、セミナー・講演会関連以外の事業に関する雑費	5,000	8,000	▲ 3,000	
②管理費		23,000	23,000	0	
給料手当					
福利厚生費					
旅費交通費	(本部のみ)				
通信運搬費	大会、セミナー・講演会関連以外の通信運搬費	15,000	15,000	0	
備品費				0	
消耗品費	大会、セミナー・講演会関連以外の消耗品	3,000	3,000	0	
光熱水料費					
雑費	(本部のみ)				
租税公課	(法人税、消費税等本部のみ計上)				
地代	(本部のみ)				
印刷費	大会、セミナー・講演会関連以外の印刷費	5,000	5,000	0	
修繕費					
減価償却費	(本部のみ)				
リース料					
事務所管理費					
退職給与引当金繰入額	(本部のみ)				
③支部費					
支部活動活性化サポート費	(本部の支出を計上する欄)				
活動助成費					
経常費用計		471,000	684,000	▲ 213,000	
当期経常増減額		▲ 170,990	▲ 203,990	33,000	
2. 経常外増減の部					
(1) 経常外収益	(例えば不動産を売る等、通常の活動外での収入、支出なのでほぼ該当なし)				
(2) 経常外費用					
当期経常外増減額					
当期一般正味財産増減額		▲ 170,990	▲ 203,990	33,000	
一般正味財産期首残高	(2021年度末の定期預金、普通預金、現金等の全ての金額)	2,446,111	2,339,923	106,188	
一般正味財産期末残高	(2022年度末の定期預金、普通預金、税金等の全ての金額)	2,275,121	2,135,933	139,188	

お 知 ら せ

1. 部会費について

令和5年度の被服構成学部会費（正会員：4000円、学生会員：2500円、永年会員2000円）は、5月中に下記郵便払込み口座にご送金くださいますようお願い申し上げます。また、過年度未納の方には別紙にてお知らせいたしましたので、併せてご送金ください。

郵便払い込み口座 00160-2-322300 日本家政学会被服構成学部会

なお、会費に関するお問い合わせは、下記にお願いいたします。

〒470-0196 愛知県日進市岩崎町竹ノ山 57

名古屋学芸大学 メディア造形学部 水嶋 丸美 宛

TEL:0561-75-7111(代表), 0561-75-1846(直通)

FAX:0561-75-2922

E-mail:marumi.m@nuas.ac.jp

2. 入退会、住所変更等について

お届け、お問合せは、下記にお願いいたします。

〒463-8521 愛知県名古屋市守山区大森 2-1723

金城学院大学 生活環境学部 伊藤 海織 宛

TEL:052-798-0180

FAX:052-798-0370

E-mail:itoh@kinjo-u.ac.jp

※ 入会申込書および変更届、退会届の書式は最終ページをご参照ください。

※ なお、退会届につきましては（一社）日本家政学会の退会手続きとは別処理になっていますので、部会への手続きも併せてしていただきますようお願いいたします。

3. E-mail アドレスについて

E-mail アドレスの登録にご協力くださりありがとうございます。アドレスをお持ちの方で、まだご登録いただいていない方は、令和5年度会費納入の際に振り込み用紙の通信欄にご記入いただければ幸いです。

また、アドレスの変更がある場合には、なるべくすみやかにお知らせくださいますよう、よろしくお願い申し上げます。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会規約

- 第1条（名 称） 本会は、一般社団法人日本家政学会被服構成学部会と称する。
- 第2条（目 的） 本会は、会員相互の研究に関する連絡及び協力をはかり、被服構成学に関する教育・研究を促進することを目的とする。
- 第3条（事 業） 本会は、前述の目的を達成するため次の事業を行う。
- 1 総会を開催する。
 - 2 被服構成学に関する研究・討議・講演などを行う。
 - 3 部会誌を発行する。
 - 4 その他の必要な事業を行う。
- 第4条（会 員） 本会の会員は、次のとおりとする。
- 1 正会員 被服構成学及びこれに関係する分野を研究する原則として一般社団法人日本家政学会会員で、本会の目的に賛同して入会した個人。
 - 2 学生会員 本会の目的に賛同して入会した学生。
 - 3 名誉会員 元部会長、または、特に本会の発展に寄与した会員で、70 歳を越えた場合に、運営委員会の議決をもって推薦された者。
 - 4 永年会員 一般社団法人日本家政学会会員の永年会員。
- 第5条（会 費） 会員は年会費を納入する。
- 1 年会費は次のとおりとする。

正会員	4,000 円
学生会員	2,500 円
永年会員	2,000 円
 - 2 名誉会員は会費を納めることを要しない。
- 第6条（入 会） 本会に入会を希望する者は、所定の入会申込書を部会長に提出し、運営委員会の承認を得るものとする。
- 第7条（退 会） 会員が退会しようとするときは、その旨を部会長に届け出るものとする。この場合、既納の会費は返却しない。
また、継続して2年間会費を滞納した場合は、原則として退会したものとみなす。
- 第8条（役 員） 本会に次の役員をおく。
- 部会長 1名
副部会長 若干名
運営委員 若干名
監 事 2名
- 第9条（役員の選任） 役員の選任は、次のとおりとする。
- 1 部会長及び監事は、運営委員会がこれを推薦して、総会で選任する。部会長の選任および解任は、理事会の承認を受けるものとする。
 - 2 副部会長及び運営委員は、部会長がこれを推薦し、会員に報告する。

第 10 条（役員の任期） 1 役員の任期は 2 年とし、再任を妨げない。

2 役員の再任については、申し合わせを別に定める。

第 11 条（役員の職務） 役員の職務は次のとおりとする。

1 部会長は本会を代表して会務を統轄し、事業計画および予算、事業報告および決算を毎事業年度、理事会に報告する。

2 副部会長は部会長を補佐し、必要な場合には部会長の職務を代行する。

3 運営委員会は本会の業務を運営する。

4 監事は本会の会計監査を行う。

第 12 条（役員の解任） 役員が次の各号の一に該当するときは、解任を運営委員会で動議し、総会で決議する。

1 心身の故障のため職務の執行に堪えないと認められるとき。

2 職務上の義務の違反、その他役員たるにふさわしくない行為があると認められたとき。

第 13 条（会 計） 本会の会計は次のとおりとする。

1 経費は会費、その他をもってまかなう。

2 会計年度は、毎年 4 月 1 日に始まり、翌年 3 月末日に終了する。

第 14 条（規約の改廃） 本規約の改廃は総会において承認を受け、理事会に報告する。

以上

附 則

1 施行に関する内規は別に定めることができる。

2 この会則の施行は昭和 54 年 10 月 8 日からとする。

3 この会則の一部改正の施行は昭和 59 年 8 月 3 日からとする。

4 この会則の一部改正の施行は昭和 63 年 8 月 1 日からとする。

5 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 15 年 8 月 27 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

6 この規約の施行は平成 15 年 8 月 27 日からとする。

7 社団法人日本家政学会部会規定に基づき、平成 18 年 8 月 22 日から被服構成学部会規約を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会会則とする。

8 この会則の施行は平成 18 年 8 月 22 日からとする。

9 社団法人日本家政学会部会運営規程および部会運営規程細則に基づき、平成 22 年 5 月 29 日から被服構成学部会会則を廃止し、社団法人日本家政学会被服構成学部会規約とする。

10 この規約の一部改正の施行は平成 22 年 5 月 29 日からとする。

11 この規約の一部改正の施行は平成 24 年 5 月 12 日からとする。

12 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 3 月 14 日からとする。

13 この規約の一部改正の施行は平成 28 年 5 月 28 日からとする。

14 この規約の一部改正の施行は平成 30 年 2 月 27 日からとする。

15 この規約の一部改正の施行は令和 2 年 3 月 6 日からとする。

一般社団法人日本家政学会被服構成学部会申し合わせ

- 1 運営委員会 運営委員会は、部会長、副部会長、運営委員、監事で構成し、その中に庶務、会計、企画、広報、編集担当をおく。
- 2 役員の任期 (1) 規約第9条に従って部会長の任期は2年とし、再任を妨げない。ただし、継続して3期はつとめられない。
(2) 運営委員の任期はできるだけ2期4年間とし、その交代は半数ずつ交互に行うことが望ましい。期間をあけての再任は、これを妨げない。
- 3 運営委員の選任 運営委員の選任にあたっては、できるだけ部会員が在住する広範な地区から選ぶように配慮する。
- 4 事務局幹事 (1) 必要に応じて事務局幹事をおくことができる。
(2) 事務局幹事は若干名とし、部会長がこれを指名する。
(3) 事務局幹事は役員会に同席することができるが、議決権は持たない。
- 5 事務局 事務局は、原則として部会長のもとにおく。
- 6 申し合わせの改廃 運営委員会の議を経て、総会で承認し、理事会に報告する。

附則

- 1 この申し合わせは、平成15年8月27日から施行する。
- 2 この申し合わせの一部改正施行は、平成18年8月22日からとする。
- 3 この申し合わせの一部改正施行は、平成24年5月12日からとする。

令和4・5年度役員

部会長	田中 早苗	東京家政大学
副部会長	村上 かおり	広島大学
	丸田 直美	共立女子大学
	石垣 理子	昭和女子大学

運営委員

(庶務)	伊藤 海織	金城学院大学
	柴田 優子	和洋女子大学
	中村 邦子	大妻女子大学 短期大学部
(会計)	水嶋 丸美	名古屋学芸大学
	鈴木 由子	東京家政大学
	工藤 寧子	柴田学園大学
(企画)	滝澤 愛	相山女学園大学
	角田 千枝	相模女子大学
	砂長谷 由香	文化学園大学
(広報)	武本 歩未	日本女子大学
	高橋 美登梨	目白大学（非）
(編集)	十一 玲子	神戸女子大学
	小野寺 美和	甲南女子大学
	伊藤 瑞香	和洋女子大学
(監事)	川端 博子	埼玉大学
	森下 あおい	滋賀県立大学

事務局 〒173-8602 東京都板橋区加賀1-18-1
東京家政大学 家政学部 服飾美術学科
TEL : 03-3961-9002
E-mail : stanaka@tokyo-kasei.ac.jp

(一社)日本家政学会 被服構成学部会入会申込書および変更届, 退会届

入会 変更 退会 (いずれかを○で囲む)	申込年月日 年 月 日		受付年月日 年 月 日		
	ローマ字				
	氏名	氏	名		
	西暦 年生		性別	男・女 (どちらかを○で囲む)	
家政学会所属支部					
自宅住所	〒(-)				
	TEL			FAX	
	E-mail				
勤務先・職名 および所在地	勤務先			職名	
	〒(-)				
	TEL			FAX	
	E-mail				
専門分野	<研究分野> <担当授業科目>				
※最終学歴					
※学位					
部会誌送付先	自宅・勤務先 (どちらかを○で囲む)				

太線枠内は必ず記入してください。E-mailも必ずお書きください。※印は差支えない範囲で結構です。

退会の場合は、今後、連絡する必要がある場合に備えて、連絡がつく自宅か勤務先の情報をご記入ください。

お届けは「お知らせ」ページの宛先まで、添付メールまたは郵送にてご提出ください。

部会費は「お知らせ」ページの口座にご送金ください。

* 個人情報保護には十分に注意をいたします。

なお、書式を被服構成学部会ホームページからダウンロードしてお使いいただくこともできます。

URL:https://www.jshe.jp/bukai_hp/hihukukouseigaku/index.html

編集後記

コロナ禍での教育活動も3年が過ぎようとしております。今年度もセミナー等すべてがオンライン開催となり、学会活動も未だに制限があります。

年度末および新年度の準備等でお忙しい中、部会誌第44号の編集にあたり執筆にご協力いただきました先生方には、厚く御礼申し上げます。夏期セミナーでは「アパレルにおけるSDGsの取り組み」、また研究例会では「フェアトレードの実践」というテーマで、衣生活教育において非常に興味深いお話を伺うことができました。これらの内容を踏まえ、新年度に向けての授業等に活かせるように準備を進めたいと思っております。学会活動も間もなく対面での開催が可能になると思われますので、先生方と直接お目にかかれる日も遠くないと楽しみにしております。今後とも部会へのご協力のほどよろしくお願い申し上げます。

(十一)

第44号の部会誌をお届けいたします。先生方にはタイトなスケジュールのなか、原稿執筆にご協力を頂きまして心より感謝申し上げます。

今年度の夏期セミナーや研究例会で、ご登壇頂きました先生方からは、とてもエネルギッシュで個性溢れるご講演を頂きました。すでに企業で取り組まれているSDGsを、どのように大学教育に取り入れていくのか、どのように伝えていくべきか、大変参考になったセミナーでした。これから進化をしていかなければならない衣生活教育に構成学部会が一助となれば幸いです。今後とも宜しくお願い致します。

(伊藤 (瑞))

令和5年3月31日発行

発行：(一社)日本家政学会 被服構成学部会

印刷：株式会社アディス

TEL：078-265-6336

